４．各部局・特別委員会活動報告

（１）事業企画部

Ａ．概要

ア．新型コロナウイルス感染拡大防止のため、指導者研修会や地域団体長会議は、昨年に引き続き、内容変更や時間短縮を行った上で開催した。

イ．指導者研修会では、福祉・医療関係者と当事者が共に視覚障害リハビリテーション等の課題に取り組んでいる「きんきビジョンサポート」の活動内容についてのお話を伺い、本会の今後の取り組みに向けての大きな学びの場となった。多くの参加者が集まっての開催が難しい状況であったため、事業企画部員を中心とした役員と講師がZoomを活用してオンラインで開催した。他の役員については、録音や文字での報告を後日配布する形で行った。

ウ．毎年地域別に開催されている福祉大会は、それぞれ形を変えて開催した。

エ．視覚障害者が交流し楽しめる事業を企画する目的で、Zoomを利用した「オンライン交流会」と「オンラインいきいき教養講座」を、他の部と連携しながら開催した。その結果、遠方からの参加や電話による参加も見られたが、電話の場合は個々の契約状況など一定の制約があることから、今後、広範な方に参加いただけるような工夫が必要である。

オ．正副会長や他の部局と連携しながら、横断的な課題への取り組みを引き続き行った。

カ．障害者権利条約の批准と完全実施を目指す京都実行委員会に委員を派遣し、視覚障害当事者としての発信に努めた。

Ｂ．会議

Zoomを活用し、原則月１回のペースで部会を行った。

（府内北部地域支援部、府内南部地域支援部、京都市内地域支援部共通事項）

合同の地域団体長会議を年１回開催してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を取りやめた。各地域別の団体長会議は適宜開催した。

（２）府内北部地域支援部

ア．地域団体長と北部担当の地域支援部員との合同会議を２回開催した。

イ．１０月９日、福知山市で開催された白杖安全デー北部集会において、企画や当日の準備について支援した。

ウ．府内北部地域福祉大会については、多くの参加者を集める催しが困難だったことから、引き続き各地域からの参加者に定員を設け、舞鶴市で府内北部地域福祉懇談会として、３月７日に開催した。

エ．北部担当の地域支援部員に本会理事以外の地域団体役員の推薦を求める中で、２名の協力員が活動に加わった。会議への参加の他、福祉懇談会の運営等にも協力を得ることができた。

オ．今年度、京都府視覚相談会が開催されない地域において、本会独自の相談会・展示会の実施を目指したが、新型コロナウイルス感染が収束せず、開催はできなかった。

（３）府内南部地域支援部

ア．１０月３日、南部白杖安全デーをアル・プラザ城陽で開催。地域団体とボランティアサークルが協力し、ショッピングモールの特性をいかした市民へのアピールができた。

イ．南部地域福祉大会の企画を進めたが、コロナウイルス感染防止のため、３年連続で開催を見送り、３月１９日に地域団体長と地域支援部員が集まり、各地域団体から出された要望事項について意見交換した。

ウ．南部アイセンターは、サロンやサークル活動に加え、高齢者社会生活教室として講演会や学習会なども開催し、コロナ禍においても、南部の拠点として皆の集える場としての役割を果たすことができた。

エ．会議の開催は、南部地域支援部会を１回、南部地域団体長・アイセンター運営委員・南部地域支援部員合同会議を１回開催した。アイセンター運営委員会は蔓延防止措置のため延期した。

オ．今後の課題

　　南部サテライト事業は、ライトハウスや京都視覚障害者支援センターに出向いてもらえる日が減ったため、地域からは以前のように支援してほしいという声が強い。部としてはほとんど支援できなかったが、そのような中でも、地域団体が主体となり、継続開催をしていただいたことは有難いことであった。

また南部地域において、地域団体が組織できていない地域があり、既存の地域団体へ組み入れるなどの対策が必要である。議論は開始したが、在住視覚障害者の実態を把握できていないという課題がある。

（４）京都市内地域支援部

ア．京都市内地域団体長会議を２回行い、各地域団体の課題を共有化し、地域団体の一部見直しについても意見交換を実施した。またブラステル電話会議の説明と利用のための練習を実施し、各地域での利用を促した。

イ．第５５回白杖安全デーの実行委員会に部員を派遣し、昨年度に引き続き動画作成、配信などを企画推進した。

ウ．京都市内地域福祉大会については、新型コロナ感染予防のため、参加者を縮小して福祉懇談会として開催した。福祉要望については、新年度に行政などに働きかけていくこととした。

（５）互助部

Ａ．概要

本年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会員が共に集い交流を深められるような行事が出来なかったことは大変残念である。その中で理事交流会やオンラインによる講演会が開催できたことは意義深いものがあった。

Ｂ．行事の開催

ア．理事交流会の開催  
役員改選により、新しく理事に就任した方もいたことから理事交流会を開催した。理事同士の親睦を深め、本会への想いを共有することができ、有意義な時間となった。

イ．「早春のつどい」の開催  
「新年のつどい」に代わるものとして、オンラインで開催した。京の食文化の歴史についての講演を聞いた。

Ｃ．会議

部会 ３回

Ｄ．今後の課題

コロナ禍において、少しでも多くの会員が集うために、互助部としてどのような事ができるのか、また、どのような催しであれば参加できるのかを模索していきたい。

（６）職業部

Ａ．「仕事サロン」による就労に関する情報交換・相互支援の促進

ア．「目の見えない人・見えにくい人の仕事サロン」をオンライン(一部は会場とオンラインのハイブリッド)で４回(第３６回～第３９回)開催。「仕事とプライベートの両立」(５月)**、**「コロナ禍での働き方」(８月)、「視能訓練士の仕事」(１１月)、「ロービジョンとしての就職」(２月)をテーマに、それぞれ当事者による講演と質疑応答、交流会を行った。

イ．サロンにおいて特に困難を抱えていると思われた参加者に対して、スタッフによるオンラインの個別フォローを行った。

ウ．１０周年を迎えるにあたり、来年度に記念行事を計画している。  
基調講演とパネルディスカッションにより、京都における視覚障害者就労の現状と将来の展望について意見交換するとともに、「仕事サロン」１０年の歩みを振り返ることとした。

Ｂ．関係機関との連携による就労支援の強化

ア．３年ぶりとなる「就労問題懇談会」(第３０回)をオンラインで開催(３月)。京都における視覚障害者就労関係機関の担当者全員が前回の懇談会以降に交代していたことから、改めて連携強化のための役割確認を行った。

イ．「雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業」新設にあたり、京都市と視覚障害者の制度活用事例を共有した。当事者への広報を行うとともに、サービス事業者に対する単価の課題等についての交渉なども事務局と協力しながら行った。

ウ．京都府立盲学校進路指導部の求めに応じ、視覚障害者として一般就労している若手当事者を紹介。盲学校の生徒対象の講演会ならびに会社見学会(１１月)の開催に協力した。

エ．「京都市障害者就労ピアサポート運営委員会」に部員２名が参画。感染拡大防止のため、書面審議にて役割を果たした。

オ．日視連弱視部会において就労の観点から「弱視者の困り事」の事例を提供。オンライン意見交換会(４月)等で情報交換を行った。

Ｃ．会議等

ア．部会 ３回（オンライン）

イ．「仕事サロン」スタッフ会議 ６回（オンライン）

ウ．京都市障害者就労ピアサポート運営委員会 ２回（書面）

エ．日視連弱視部会委員総会 ２回(オンライン)

Ｄ．今後の課題

ア．「仕事サロン」の参加者に対する共催団体等との連携による個別フォローの充実

イ．「仕事サロン」１０周年記念行事の実施ならびにこれまでの記録の整理と公開

ウ．京都ライトハウスの鳥居寮やＦＳトモニーならびに関係機関との更なる連携による京都府における就労支援の仕組みの構築

エ．就労支援機関の職員を対象とした研修会等の実施

オ．京都市の「就労支援特別事業」の一般企業勤務者への適用拡大促進と京都府内の自治体に対する制度実施の要望

（７）情報宣伝部

Ａ．概要

ア．点字京都、メルマガ色鉛筆、色鉛筆の書籍化、本会ホームページそれぞれで安定した発信や新企画等に取り組めた。

イ．当事者による写真や書道などの作品を募集し掲載することで、本会活動に関わってもらうきっかけと、本会を知っていただく機会となった。広報、啓発、情報の共有という役割を担う情報宣伝部の活動は、関わっていただく方の強みをダイレクトに発揮できる場でもあると言える。文章、画像、創作物などを通して、活動の場としてのつながりの提案ができたことは、本会活動に「自分らしい参加の方法」を提案できたとも言える。

ウ．目標に掲げた内容について新型コロナウイルス感染防止の観点から、実施できなかったものも複数あった。

Ｂ．点字京都について

ア．編集後記と連動した写真（当事者作品）を掲載した。

イ．点京ツイートを募集し、多面的な記事の掲載ができた。

Ｃ．京視協ホームページの運営について

ア．点字京都の記事から、非会員にも有益な情報をピックアップして毎月掲載した。

イ．本会ホームページ内に、見えない・見えにくい人の作品を掲載した「時のフレーム」を開設した。「点字京都」編集後記の写真をカラーで掲載し、見える人にホームページを閲覧していただくきっかけ作りとした。

ウ．YouTubeを活用し、青年部・きららの会合同企画や白杖安全デーの動画をアップした。

Ｄ．メールマガジン「色鉛筆」の発行

ア．毎月３回の配信を行った。

イ．１２名のライターが加わり、総勢で１１７名となった。

ウ．日本テレビ系ドラマ「恋です！〜ヤンキー君と白杖ガール〜」に関するレポートを配信したことをきっかけに、番組制作スタッフに当事者の声を届けることができた。

エ．書籍「見えない地球の暮らし方」に関する情報をレポートと連動し発行したことで、書籍を読んだ方からメルマガ読者登録希望があった。

Ｅ．書籍「見えない地球の暮らし方」

ア．書籍を3,000部制作し、およそ2,900部を希望者に届けた。テキストデータ（ＣＤ版）も希望者に配布した。また、電子書籍（Kindle）を無料公開し、ホームページにも内容を公開した。  
続いて音声デイジーとテキストデイジーがサピエにアップされ、点字データも京都ライトハウス情報ステーションにて製作中である。複数の点訳・音訳グループより、本書を活用したいとの依頼があった。

イ．視覚障害者関係団体に案内を送った。ラジオ、新聞など複数のメディアでも取り上げられた。

ウ．第30回視覚障害リハビリテーション研究発表大会にて抄録を提出。

Ｆ．会議

ア．部会 ２回（オンライン）

イ．点字京都編集委員会 １２回（オンライン）

ウ．メールマガジンの編集運営会議　基本的に週１回定期的に実施

（８）市民啓発部

Ａ．概要

ア．コロナ禍により府市民に対する啓発活動が充分にできなかったが、これまでの活動を振り返り、実現可能な活動についての立案や新たな工夫点を整理することができた。そうした中で、サポートボランティアフォローアップ講座を実施することができた。

イ．本年度の計画の一つ、講師育成の一環として、ベテラン講師の講演を参観いただく試みを行った。

ウ．毎年梅小路公園で実施されている「ほほえみ広場」は、主催者の判断で中止となった。

エ．例年どおり「あい・らぶ・ふぇあ」を担当し、実行委員会に部員１名と協力員１名を派遣した。

オ．点字指導者研修会を２会場で開催した。南部会場はオンラインを活用した点訳指導について、北部会場は「読書バリアフリー法」について解説し、点訳ボランティアおよび当事者に情報提供を行った。

カ．目の健康講座（亀岡会場）に部員１名を派遣した。

Ｂ．実施事業

ア．サポートボランティアフォローアップ講座 １１月１２日

イ．南部点字指導者研修会 ２月２２日

ウ．北部点字指導者研修会 ３月１１日

Ｃ．派遣講師の育成

新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、大規模な研修は行わず、個々に声掛けを行いベテラン講師の講演を参観してもらった。本年度も講師派遣依頼は減少したままだが、来年度は講師として学校等を訪問し、活動していただきたい。慣れるまではベテラン講師が同行し、フォローする体制が整ってきた。

Ｄ．会議

ア．京都視覚障害者ボランティア連絡会 ４回（書面報告）

イ．京都インクルーシブ教育を考えるシンポジウム会議 【中止】

ウ．ほほえみ広場実行委員会 【中止】

エ．部会 ４回

Ｅ．今後の課題

ア．視覚障害者サポート講座の受講生が、実際にボランティア活動をしていただけるような継続的なフォローと育成等の取り組みを行う。

イ．講師育成を目的とした講演参観の取り組みは継続して続けていく。積極的に新人講師を学校等に派遣し、経験を積んでいただきたいと考える。

ウ．コロナ禍でも開催できる研修会を模索する。部員でアイデアを出し合い、例年通りの活動ができるよう工夫したい。

（９）生活環境改善部

Ａ．概要

公共交通や歩行環境の改善要望への対応、本部より提起された課題を遂行するための役割分担と各地域の状況を把握するため、府内を３地域に分け、担当者を配置した。各地に居住する部員との情報共有と事業遂行の際の調整のためにメーリングリストを立ち上げ、活用した。

Ｂ．活動報告

ア．視覚障害者の単独移動の安全確保に不可欠な音響式信号機や点字ブロック・エスコートゾーンの設置等の実現のために、地域団体の協力を得ながら、行政との懇談会および現地確認を行った。その結果、南部アイセンター周辺から最寄りの駅までの点字ブロック敷設や、国道９号中山交差点付近について安全対策が取られることとなった。円町交差点のエスコートゾーン敷設も進みつつある。各地域団体の取り組みによる、エスコートゾーンの修復や音響式信号機の設置についても確認し、必要に応じて助言等を行った。

イ．公共交通機関に関して多数の改善要望があり、京都市交通局や各鉄道会社へ要望を伝えた。具体的な内容は、行き先・次停車駅や乗換の案内、駅周辺から乗車口・バス停周辺への点字ブロック敷設、京都駅前バスターミナルなど大きな場所における案内の充実・バス停の改善などである。本会に届いたバス停移動情報や、ＪＲ京都駅の工事状況などは随時、点字京都に掲載し、お知らせをしている。

ウ．コロナ禍により会合や催しが中止となり、直接関係者との意見交換や要望が出来ない状況下で、毎年恒例の京都市交通局・府タクシー協会との懇談が行えず、書面での要望提出と回答となったことは残念であった。しかし、関西空港旅客ターミナルビルのリニューアルにおいては、直接意見を述べることができ、今後の公共施設バリアフリー化の一助となればと期待している。

Ｃ．今後の課題

ア．交通問題に関する相談、調査活動、会員への情報提供のための研修会の開催。

イ．ロービジョン者の抱える課題・現在の取り組みの把握。

ウ．災害時の情報入手や居住地の安全確認ができるような対策の検討。

エ．選挙など日常生活全般の実態把握と要望活動。  
部単独で取り組むには大変大きなテーマであるが、情報の把握と学習に取り組めるよう検討していきたい。

（10）文化部

Ａ．概要

ア．文化部の事業は人が集まることが基本となるため、本年度も新型コロナウイルスに翻弄された１年となった。２月に予定していた文化祭典は中止になり、副音声による上映体験会は実施出来なかった。

Ｂ．文化活動

ア．本部成人講座 ９月５日

録音ＣＤも作製し、希望者に配布した。

イ．「手で触れる日展鑑賞会」 １２月１９日　  
京セラ美術館で「五感で楽しむ会」が実施され、文化部として協力した。

ウ．文化祭典 【中止】２月２０日

（11）スポーツ部

Ａ．概要

新型コロナウイルスの影響でスポーツ活動に制約のある１年であったが、対策を取りながら行事を開催した。運動不足に陥りやすい視覚障害者に運動の機会を持ってもらうため、ゴールボール・フロアバレーボール・スクエアボッチャなどのスポーツ体験会や京視協ゴールボール大会を開催した。卓球とフロアバレーボールの近畿ブロック大会は、残念ながら２年連続で中止となった。

Ｂ．実施事業

ア．スポーツデー（体験会） １２月５日

イ．京視協ゴールボール大会 ２月１３日

Ｃ．会議

ア．日視連スポーツ協議会代表者会議 １回

イ．日視連近畿ブロックスポーツ部会 ２回

ウ．京都障害者スポーツ振興会代表者会議 【中止】

エ．部会 ３回

（12）経理部

Ａ．概要

ア．２年に渡る新型コロナウイルスの流行は、本会と地域団体の活動、運営にとって危機迫るものがあり、本会の収益に多大な影響をもたらした。中でも職員への負担は計り知れないものがある。

イ．昨年同様、年度当初より大幅な赤字額が予想されたので、対策として各種助成金の活用、雇用調整による休業実施、昇給停止などの人件費削減を行った。また大口寄付金を受領したが、これらは本会事業活動に直接関連のない収益であり、先行きの見えない状況は続いている。

ウ．本年度も、顧問税理士をはじめ、担当職員による再三にわたっての業績予想の見直しをせざるを得なかった。

エ．本会会計は、直ちには破綻するものではないが、決して楽観視できる状況ではない。来期も厳格な対策と資金管理が必要である。

Ｂ．会議

ア．監査会

2020年度決算に対する監査 ５月２７日

2021年度中間監査 １１月１５日

2021年度最終監査 2022年５月２７日予定

イ．顧問税理士巡回 １２回

ウ．部会 ２回

（13）ＩＴ活用支援部

Ａ．概要

ア．パソコン講習会、スマホサロン、Zoomサロン等を実施した。

イ．初めての試みとして、Zoom指導者研修会を開催し、講師育成に努めた。

ウ．各地域のＩＴ関連講習会に講師を派遣した。

Ｂ．会議

ア．部会 ７回

イ．Zoomサロン事前打ち合わせ ２回

Ｃ．今後の課題

視覚障害者のスマートフォンに対する期待は大きく、講習会への講師派遣の要望も増えている。しかし、部員のみによる対応には限界があるため、指導者研修会の開催による各地域での指導者育成を進めるとともに、通信会社等の力を借りながらのスマホ講習会開催を検討していきたい。

（14）事務局

Ａ．概要

ア．昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大のため、講座や親睦行事の開催などの活動が非常に困難であった。しかし、各部局や賛助団体の協力により、感染対策を取りながら可能な限り開催することができた。また、オンラインによる会議や行事の実施も定着しつつある。今後、より多くの人たちがオンラインによる行事等に参加できるような支援が求められている。

イ．医療機関等に通院していない人、当事者同士の交流は求めているが本会とつながっていない人、他府県からの転入により情報がまだ入手できていない人などには、視覚障害関係の情報や本会の活動を伝える機会が非常に乏しい。個人情報保護に配慮しつつ、必要な人に情報を提供するためには、本会のみならず、幅広い機関との連携による仕組み作りを引き続き検討しなければならない。

Ｂ．他団体等との連携

ア．日視連関係

理事会、評議員会、指導者研修会、中央省庁交渉、同行援護事業所等連絡会、近畿ブロック協議会団体長会議、近畿ブロック協議会委員会等

イ．日身連関係

府身連正副会長会議、府身連及び市身連理事会・評議員会・総会等、市身連交通懇談会等

ウ．京都府関係

障害者社会参加推進協議会、障害者施策推進協議会、心身障害者世帯府営住宅優先入居審査委員会等

エ．京都市関係

障害者施策推進審議会、障害者自立支援協議会、ユニバーサルデザイン審議会、「歩くまち・京都」推進会議、交通バリアフリー推進会議等

オ．京都府・市社会福祉協議会

評議員会、障害者団体長会議、障害福祉委員会等

カ．京都障害児者の生活と権利を守る連絡会

総会、常任委員会等

キ．施設・団体関係

共催事業に関する懇談会、京都ライトハウス理事会・評議員会、京都視覚障害者支援センター理事会・評議員会、関西盲導犬協会理事会・評議員会、丹後視力障害者福祉センター理事会・評議員会

Ｃ．記録・資料の作成

ア．理事会・総会の議事録作成と配付

イ．理事会及び正副会長会議の資料作成

ウ．決裁事項の処理

エ．文書の起案・発行

対外（甲）１１３号、対内（乙）５５号、その他

Ｄ．2022年３月３１日現在の会員数

正会員 ９３０名

特別会員 ５名

賛助会員 ７０名

賛助団体 ４１団体

（15）三療部

Ａ．概要

ア．あはき法１９条違憲訴訟裁判は、２月７日、最高裁での判決で、上告が棄却された。わが国においては、現在でもあん摩マッサージ指圧師のうち晴眼者が８割を超える実情であり、あん摩師等法１９条による規制が緩和されるようなことがあれば、さらに晴眼者の占有率が加速度的に拡大し、この分野における視覚障害者の職業的自立は成り立たなくなる。今後も視覚障害者の職業としてしっかりと守っていく必要がある。

イ．新型コロナウイルスの感染拡大のため、京都視覚障害者三療関係団体連絡会が、昨年度に引き続き開催できなかった。

ウ．１月１７日、京都府と公益社団法人 京都府鍼灸師会、公益社団法人 京都府鍼灸マッサージ師会、一般社団法人 京都府あん摩マツサージ指圧師会（以下、京マ会と表記）及び本会の4団体とで災害時、避難所などにあはき師を派遣するという「災害時におけるあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師の業務提供に関する協定」を締結した。

エ．研修・学術活動については、京都市内・北部地域で京マ会と合同の研修を開催した。

オ．京マ会と合同で無資格者問題の啓発活動を行った。

Ｂ．今後の取り組み

ア．引き続き三療業が視覚障害者の職業として守られるよう、また視覚障害三療家の生き残りを図るための活動に取り組んでいく。

イ．京都視覚障害者三療関係団体連絡会へ出席し、三療情報の共有を図る。

ウ．本会職業部や京マ会と連携し、三療の就労問題に取り組む。

エ．研修・学術活動については、京マ会と協力して取り組む。

オ．京視協本部や日視連のあはき協議会と連携し、行政への要望活動を継続していく。

カ．無資格者問題啓発のためのグッズを、様々なイベントなどで配布する。

（16）音楽部

Ａ．概要

新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しつつ、どのように活動していくか悩みながらの１年であった。教室においては、講習が中止になった時期もあったが、可能な限り開催する方向で取り組んだ。ただ使用の許可が出ず、やむを得ず中止にせざるを得ない期間が長くなった施設もあった。

また京都市において重度障害者就労支援特別事業が９月より開始され、制度内容について箏曲家に限らず音楽関係の方へ広く周知したことにより、実際の利用開始に繋がった。

Ｂ．講座の開講と講師派遣活動

ア．今年度も京都市内４教室において講座を開講し、音楽部より講師を派遣した。

イ．会場

　ａ．京都アスニーアトリエ箏曲教室

　ｂ．京都ライトハウス箏・三弦教室

　ｃ．京都市障害者スポーツセンター箏サークル

　ｄ．京都新聞文化センター箏曲教室

Ｃ．演奏活動

９月１２日、京都府立文化芸術会館にて開催された「第５回箏・三絃・尺八による音楽会」で演奏した。音楽部員とその門下生１０名が参加した。（無観客開催。後日、YouTube配信）

Ｄ．会議その他

演奏会出演のための練習 ２回

演奏会出演団体代表者会議 １回

日視連音楽家協議会常任委員会 １回

（17）高齢部

Ａ．概要

ア．今年度も仲間作りと各地域の情報交換を大切に活動した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で行事等は全て人数を制限し、感染対策を徹底して実施した。

イ．高齢部福祉のつどいでは、本会の佐藤相談役を講師に招き、「本会の歴史」について知識を深めた。また、エレクトーンによるタンゴ、クラシック、懐メロなど多様な楽曲の演奏を堪能した。

ウ．地域交流研修会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった。

Ｂ．会議

ア．2022年度総会 ３月１７日　京都ライトハウス

イ．役員会 ２回

（18）女性部

Ａ．概要

ア．視覚障害女性の積極的な社会参加・地位向上・お互いのふれあいを目的に活動を行った。

イ．京都府・京都市委託の家庭生活訓練事業は新型コロナウイルス感染対策をしながら積極的に取り組むことができた。

ウ．オンラインで開催された第６７回全国視覚障害女性研修大会（鹿児島県）に参加した。

Ｂ．研修会

府内合流研修会 １０月２８日　宇治市総合福祉会館

Ｃ．その他の行事参加

【中止】第３２回視覚障害者文化祭典

Ｄ．会議

ア．総会 ４月１５日　京都ライトハウス

イ．役員会 ３回

ウ．日視連女性協議会代表者会議

９月１日　鹿児島県（オンライン）

エ．日視連近畿ブロック女性協議会連絡会議

１月２１日　大阪府（オンライン）

Ｅ．その他

点字京都に行事案内などを投稿した。また、日視連女性協議会発行の会報「あかね」点字版・デイジーＣＤ版等の各地域への配布を行った。

（19）青年部

Ａ．概要

ア．コロナ禍で行事などが減少する中ではあったが、青年部独自のメーリングリストを活用して、生活上で感じた疑問の解決や、それぞれの近況報告などの情報交換を積極的に行うことができた。

イ．制限された環境下ではあったが、きららの会との合同行事「スマホ交流会」を１月に開催することができた。

ウ．本会事業への積極的な参加及び呼びかけを通して、青年層への視覚障害者福祉の理解を進めた。

エ．行事終了後に毎回懇親会を企画してきたが、コロナ禍で一度も開催できず、親睦を図ることが大変困難であった。

Ｂ．主催行事・会議等

ア．第１回近畿ブロック協議会青年部委員会

　　６月２７日　大阪市（オンライン）

イ．第２回近畿ブロック協議会青年部委員会

２月１９日　大阪市（オンライン）

ウ．第６７回全国盲青年研修大会

９月１９日～９月２０日　神奈川県（オンライン）

Ｃ．その他

ア．部会が開催できなかったため、メールで情報共有・意見交換を行った。

イ．メーリングリストの運営、管理

（20）第５５回白杖安全デー実行委員会

第５５回白杖安全デー

「視覚障害者の交通安全を考える府・市民のつどい」

【実施方法】

YouTubeを使って動画配信

【実施日時】

３月１４日～

【テーマ】

「なあなあ聞いて！私たちの声」

～視覚障害者の安全な外出のために～

【主　催】

公益社団法人　京都府視覚障害者協会

社会福祉法人　京都ライトハウス

社会福祉法人　京都視覚障害者支援センター

公益財団法人　関西盲導犬協会

京都府立盲学校

京都府立視力障害者福祉センター

Ａ．概要

新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度も昨年度に引き続き、動画配信で啓発活動することとなった。

動画の前半は、歩行訓練士に「視覚障害者と白い杖」というテーマで視覚障害者の歩行や白杖についての講演や、簡単な手引きの講習をしていただいた。後半は当事者３名の方に「ガイドヘルパーとともに歩く視覚障害者の声」「単独歩行する視覚障害者の声」「盲導犬とともに歩く視覚障害者の声」をテーマにお声をいただき、５１分の動画１本を製作した。より多くの方に動画を視聴してもらうため、イラスト入りのポスターとチラシを製作し配布した。さらに、動画の視聴が難しい視覚障害者向けに、音声ＣＤを製作した。

点字京都２０２２年４月号にて音声ＣＤの完成を周知し、希望者への配布を予定している。

Ｂ．会議

実行委員会 ３回

その他、調整会議や打ち合わせなどを適宜行った。

Ｃ．白杖安全デー府内北部集会

実施日　　１０月９日

会　場　　市民交流プラザふくちやま

今年度も新型コロナウイルス感染防止の側面から参加人数を制限して集会を実施した。集会は視覚障害者会員と付添者、地元のボランティアや行政の職員、講演いただいた福知山市危機管理室の方を含め約70名の参加となった。

集会の前半は、福知山市危機管理室の方より「災害時、命を守る行動とは」という演題で、福知山市における過去の災害を事例に防災情報の入手手段や避難行動について講演いただいた。

後半は北部地域視覚障害者団体の３名の方より、各地域の交通事情や特色、地域における交通問題等について発表いただき、視覚障害者を取り巻く交通環境や課題を参加者全員で共有した。

その後、参加者全員で視覚障害者が安全に外出するための決議文を採択した。今年度は集会の規模も時間も縮小せざるを得ない状況となったが、来年度は例年同様の集会が開催できることを願い、閉会した。

Ｄ．白杖安全デー府内南部集会

実施日　１０月３日

会　場　アル・プラザ城陽　１階　プラムコート

少しでも多くの一般府市民に視覚障害について理解していただきたいと考え、スーパーマーケットのオープンスペースで集会を開催した。

大和ハープの演奏や、城陽支部とボランティアによる白杖を持った人の手引き方法や声のかけ方、点字ブロックを題材にした寸劇、関西盲導犬協会職員と盲導犬ユーザーによるトークを行った。買物に来られた多くの方々に立ち止まっていただき、視覚障害者の声を届けることができた。

（21）第４７回あい・らぶ・ふぇあ実行委員会

視覚障害者福祉啓発事業　第４７回あい・らぶ・ふぇあ

【テーマ】

見えない・見えにくいを知ろう！

【主　催】

公益社団法人　京都府視覚障害者協会

社会福祉法人　京都ライトハウス

社会福祉法人　京都視覚障害者支援センター

公益財団法人　関西盲導犬協会

Ａ．概要

「あい・らぶ・ふぇあ」は、多くの府市民に「見えない・見えにくい」とはどういうことかを理解していただくための取り組みとして、今年度で４７回目を迎えた。

残念ながら、今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため、多くの市民が来場するイベントの開催は見合わせた。昨年度に作成した物販店及び飲食店で視覚障害者のサポートに活用いただけるチラシを増刷し、ラミネート加工をして配布する活動を継続実施した。ショッピングモールのほか、飲食チェーン店や視覚障害者関係施設近辺の店舗など、新しい場所にも広めることができた。配布先における反応や活用状況なども勘案しながら、今後の活動に生かしていきたい。

なお、年度末時点では新型コロナウイルス感染拡大の収束がまだ見通せないが、来年度のできるだけ早い時期に、市民が来場し視覚障害者と交流しながら学んでいただけるイベントを開催できるよう、取り組みを開始した。

Ｂ．会議等

実行委員会 ６回

その他、班会議を適宜行った。

　　Ｃ．今後の課題

　　今後、新型コロナウイルスの感染状況も注視しながら、新しい会場でどのような取り組みを行えば、見えない・見えにくい私たちの生活を、より多くの市民に理解してもらうことができるのか、検討を続けていきたい。

（22）第５８回近畿視覚障害者グランドソフトボール大会実行委員会

Ａ．概要

　　５月３０日に朱雀公園で大会を開催するため、昨年度から準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、日視連近畿ブロック協議会より抽選会への変更が通達された。なお、抽選の結果、京都府チームの優勝となった。

Ｂ．会議

　　実行委員会 １回